

日常の生活実態に関する
アンケート調査
(結果報告書)

令和5年4月
高槻市子ども未来部
高槻市教育委員会

目次

1 調査概要	1
(1)調査目的	1
(2)調査対象	1
(3)調査方法	1
(4)調査期間	1
(5)回答状況	1
2 調査結果	2
(1)基本情報	2
(2)普段の生活について	4
(3)家庭や家族のことについて	7
(4)ヤングケアラーについて	16
3 結果詳細分析	17
(1)家族の世話の有無による学校生活等の状況	17
(2)家族構成からみる世話の状況	21
(3)平日1日あたりの世話に費やす時間による生活状況	28
(4)世話をしている相手ごとの世話の状況等	33
(5)ヤングケアラーへの該当性の有無による状況の違い	36
4 自由記述	45
(1)小学5年生	45
(2)中学2年生	46
5 調査結果のまとめ	47
6 おわりに	49

1 調査概要

(1)調査目的

本市におけるヤングケアラーと思われる事例の実態を調査するとともに、ケアを行っている児童生徒のケアの状況や困りごと、支援ニーズ等を把握することを目的に実施した。

(2)調査対象

市立学校に在籍する小学5年生及び中学2年生の児童生徒 5,796 人

(3)調査方法

- ・各学校を通じて児童生徒に調査チラシを配布
- ・回答方法は、学校の配付端末を用いて、Web環境から回答(調査チラシの二次元コードから案内)
- ・調査は無記名式とし、調査項目は令和2・3年度に国が実施した「ヤングケアラーの実態に関する調査研究」を参考に作成
- ・小学5年生向けには、漢字のひらがな表記及び平易な表現への書換え
- ・設問は必須項目を設けず、任意の回答とした

(4)調査期間

令和5年1月16日(月)から令和5年2月10日(金)

(5)回答状況

区分	調査対象数(人)	有効回答数(件)	回答率(%)
小学5年生	2,893人	2,010件	69.5%
中学2年生	2,903人	2,061件	71.0%
計	5,796人	4,071件	70.2%

※調査対象者数は令和5年1月10日時点の児童生徒数

2 調査結果

(1)基本情報

①性別

回答者の性別は以下のとおりとなった。

表 1 性別

(%)

	全体 (n=)	男性	女性	無回答
小学5年生	2010	46.2	51.9	1.9
中学2年生	2061	49.2	49.4	1.4
計	4071	47.7	50.6	1.7

②同居家族

回答者の同居家族は以下のとおりとなった。

表 2 同居家族（複数回答）

(%)

	全体 (n=)	母親	父親	祖母	祖父	兄弟	弟妹	その他	無回答
小学5年生	2010	98.4	88.5	8.4	5.1	53.3	44.6	0.7	0.4
中学2年生	2061	97.2	86.0	9.0	5.1	51.2	47.7	0.9	0.6
計	4071	97.8	87.3	8.7	5.1	52.2	46.2	0.8	0.5

※調査結果の表記(%)について、小数点第2位を四捨五入した値を表記しているため、合計が100%とならない場合がある。(以下の調査結果同様)

③家族構成

回答から、両親と子どもから成る世帯を二世帯世帯、二世帯世帯に祖父母を含むものを三世帯世帯、母親または父親の一方と子どもから成る世帯をひとり親世帯、それ以外の世帯をその他世帯と分類した。

表 3 家族構成

(%)

	全体 (n=)	二世帯世帯	三世帯世帯	ひとり親世帯	その他世帯	無回答
小学5年生	2010	81.2	6.2	8.7	3.5	0.4
中学2年生	2061	78.3	6.4	10.2	4.6	0.6
計	4071	79.8	6.3	9.4	4.1	0.5

④健康状態

健康状態は、いずれも「よい」が最も高くなっている。小学5年生の96.7%、中学2年生の91.9%が「よい」～「ふつう」と答えている。

表 4 健康状態（複数回答）

(%)

	全体 (n=)	よい	まあよい	ふつう	体が時々しんどい	体がいつもしんどい	心が時々しんどい	心がいつもしんどい	無回答
小学5年生	2010	50.3	20.4	26.0	10.1	1.1	6.2	1.5	0.5
中学2年生	2061	44.6	21.1	26.2	13.8	1.6	9.4	2.9	0.2
計	4071	47.4	20.8	26.1	12.0	1.4	7.8	2.2	0.4

(2) 普段の生活について

① 学校の出席状況

学校の出席状況は、いずれも「ほとんど欠席しない」が最も高くなっている。

表 5 学校の出席状況

(%)

	全体 (n=)	ほとんど欠席しない	たまに欠席する	よく欠席する	無回答
小学5年生	2010	74.4	22.3	2.5	0.8
中学2年生	2061	80.6	17.2	1.9	0.3
計	4071	77.5	19.7	2.2	0.5

② 遅刻や早退の状況

遅刻や早退の状況は、いずれも「ほとんどしない」が最も高くなっている。

表 6 遅刻や早退の状況

(%)

	全体 (n=)	ほとんどしない	たまにする	よくする	無回答
小学5年生	2010	83.5	12.4	3.1	1.0
中学2年生	2061	78.3	17.5	3.8	0.4
計	4071	80.9	15.0	3.5	0.7

③習い事等の状況

習い事等の状況は、いずれも「している」が最も高くなっている。

表 7 習い事等の状況

(%)

	全体 (n=)	している	していない	無回答
小学5年生	2010	82.1	17.1	0.8
中学2年生	2061	76.3	23.2	0.5
計	4071	79.1	20.2	0.6

④普段の学校生活等であてはまること

普段の学校生活等であてはまることについては、「特にない」が最も高くなっている。その他では、小学5年生は「持ち物の忘れ物が多い」、中学2年生は「提出物を出すのが遅れることが多い」がそれぞれ高くなっている。

表 8 普段の学校生活等であてはまること (複数回答)

(%)

	全体 (n=)	授業中に寝てしまうことが多い	宿題ができていないことが多い	持ち物の忘れ物が多い	習い事を休むことが多い	提出物を出すのが遅れることが多い	宿泊行事を欠席する	保健室で過ごすことが多い	学校では一人で過ごすことが多い	友達と遊んだり、おしゃべりしたりする時間が少ない	特にない	無回答
小学5年生	2010	4.6	10.6	25.5	1.8	19.5	0.4	1.0	6.0	5.0	58.0	1.3
中学2年生	2061	24.8	21.3	25.9	4.0	34.2	0.9	1.4	6.8	6.4	42.9	1.9
計	4071	14.9	16.0	25.7	2.9	26.9	0.7	1.2	6.4	5.7	50.4	1.6

⑤悩みや困りごと

悩みや困りごとについては、「特にない」が最も高くなっている。その他では、小学5年生は「友達のこと」、中学2年生は「学校の成績のこと」がそれぞれ高くなっている。

表 9 悩みや困りごと（複数回答）

(%)

	全体(n=)	友達のこと	学校の成績のこと	習い事のこと	家族のこと	生活や勉強に必要なお金のこと	自分のために使える時間が少ないこと	その他	特にない	無回答
小学5年生	2010	17.1	11.5	8.1	6.0	3.7	5.4	4.3	63.5	2.0
中学2年生	2061	15.2	42.0	8.0	7.7	7.8	8.3	6.3	43.9	2.5
計	4071	16.1	26.9	8.1	6.9	5.7	6.9	5.3	53.6	2.3

⑥悩みや困りごとの相談相手の有無

悩みや困りごとが有ると回答した人のうち、相談相手の有無を質問したところ、いずれも「相談相手がいる」が最も高くなっている。

表 10 悩みや困りごとの相談相手の有無

(%)

	全体(n=)	相談相手がいる	相談相手がいない	相談や話はしたくない	無回答
小学5年生	693	56.3	8.2	31.6	3.9
中学2年生	1104	67.8	7.2	20.6	4.4
計	1797	63.3	7.6	24.8	4.2

(3)家庭や家族のことについて

①世話をしている人の有無

世話をしている人の有無については、以下のとおりとなった。

表 1 1 世話をしている人の有無

(%)

	全体 (n=)	いる	いない	無回答
小学5年生	2010	7.8	90.0	2.2
中学2年生	2061	6.0	92.0	2.0
計	4071	6.9	91.0	2.1

②世話をしている相手

世話をしている人がいると回答した人のうち、世話をしている相手は、いずれも「きょうだい」が最も高くなっている。

表 1 2 世話をしている相手 (複数回答)

(%)

	全体 (n=)	母親	父親	祖母	祖父	きょうだい	その他	無回答
小学5年生	156	13.5	10.9	7.1	3.2	69.9	0.0	17.9
中学2年生	123	14.6	9.8	8.9	4.9	61.0	4.1	18.7
計	279	14.0	10.4	7.9	3.9	65.9	1.8	18.3

③父母の世話の理由

世話をしている相手を父母と回答した人に、世話の理由を質問したところ、いずれも「わからない」が最も高くなっている。

表 1 3 父母の世話の理由（複数回答）

(%)

	全体(n=)	高齢(65歳以上)	介護が必要	身体障がいがある	知的障がいがある	心の病気がある	依存症がある	その他の病気	日本語が苦手	その他	わからない	無回答
小学5年生	23	0.0	0.0	4.3	0.0	0.0	4.3	0.0	0.0	13.0	60.9	21.7
中学2年生	19	5.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	5.3	15.8	57.9	15.8
計	42	2.4	0.0	2.4	0.0	0.0	2.4	0.0	2.4	14.3	59.5	19.0

④祖父母の世話の理由

世話をしている相手を祖父母と回答した人に、世話の理由を質問したところ、いずれも「高齢(65歳以上)」が最も高くなっている。

表 1 4 祖父母の世話の理由（複数回答）

(%)

	全体(n=)	高齢(65歳以上)	介護が必要	身体障がいがある	知的障がいがある	心の病気がある	依存症がある	その他の病気	日本語が苦手	その他	わからない	無回答
小学5年生	13	46.2	15.4	0.0	7.7	0.0	0.0	7.7	0.0	15.4	30.8	7.7
中学2年生	14	57.1	35.7	21.4	14.3	0.0	0.0	14.3	0.0	0.0	7.1	7.1
計	27	51.9	25.9	11.1	11.1	0.0	0.0	11.1	0.0	7.4	18.5	7.4

⑤きょうだいの世話の理由

世話をしている相手をきょうだいと回答した人に、世話の理由を質問したところ、いずれも「幼い」が最も高くなっている。

表 15 きょうだいの世話の理由（複数回答）

(%)

	全体(n=)	幼い	介護が必要	身体障がいがある	知的障がいがある	病気がある	日本語が苦手	その他	わからない	無回答
小学5年生	109	71.6	1.8	0.0	0.0	0.0	0.9	7.3	12.8	5.5
中学2年生	75	68.0	1.3	6.7	5.3	0.0	1.3	8.0	13.3	2.7
計	184	70.1	1.6	2.7	2.2	0.0	1.1	7.6	13.0	4.3

⑥その他の人の世話の理由

世話をしている相手をその他の人と回答した人に、世話の理由を質問したところ、中学2年生は「その他」が高くなっている。

表 16 その他の人の世話の理由（複数回答）

(%)

	全体(n=)	高齢(65歳以上)	介護が必要	身体障がいがある	知的障がいがある	心の病気がある	依存症がある	その他の病気	日本語が苦手	その他	わからない	無回答
小学5年生	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
中学2年生	5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	60.0	20.0	20.0
計	5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	60.0	20.0	20.0

⑦世話を一緒にしている人

世話を一緒にしている人については、いずれも「母親」が最も高くなっている。

表 17 世話を一緒にしている人（複数回答）

(%)

	全体 (n=)	母親	父親	祖母	祖父	きょうだい	親戚の人	自分のみ	福祉サービスを利用	その他	無回答
小学5年生	156	60.3	41.7	9.6	5.1	24.4	2.6	14.7	1.9	0.0	22.4
中学2年生	123	54.5	41.5	9.8	7.3	31.7	1.6	12.2	4.1	0.8	26.0
計	279	57.7	41.6	9.7	6.1	27.6	2.2	13.6	2.9	0.4	24.0

⑧世話を始めた年齢

世話を始めた年齢については、小学5年生は「小学生(低学年)」、中学2年生は「小学生(高学年)」がそれぞれ最も高くなっている。世話を始めた年齢の平均値は、小学5年生で7.6歳、中学2年生で9.9歳であった。

表 18 世話を始めた年齢

(%)

	全体 (n=)	就学前	小学生(低学年)	小学生(高学年)	中学生以降	無回答
小学5年生	156	19.9	34.6	14.1	0.0	31.4
中学2年生	123	13.0	8.1	33.3	13.8	31.7
計	279	16.8	22.9	22.6	6.1	31.5

⑨世話の頻度

世話の頻度は、いずれも「ほぼ毎日」が最も高くなっている。

表 19 世話の頻度

(%)

	全体 (n=)	ほぼ毎日	週に3~5日	週に1~2日	1か月に数日	その他	無回答
小学5年生	156	39.1	13.5	13.5	6.4	4.5	23.1
中学2年生	123	46.3	10.6	10.6	4.1	3.3	25.2
計	279	42.3	12.2	12.2	5.4	3.9	24.0

⑩平日1日当たりの世話を行う時間

平日1日当たりの世話を行う時間は、いずれも「3時間未満」が最も高くなっているが、平日1日当たりの世話を行う時間の平均値は、小学5年生で3.5時間、中学2年生で4.8時間であった。

表 20 平日1日当たりの世話を行う時間

(%)

	全体 (n=)	3時間未満	3~7時間未満	7時間以上	無回答
小学5年生	156	35.9	26.9	7.1	30.1
中学2年生	123	39.8	16.3	10.6	33.3
計	279	37.6	22.2	8.6	31.5

⑪世話をしていることで影響があること

世話をしていることで影響があることについては、「特にない」を除くと、いずれも「自分の時間が取れない」が高くなっている。

表 2 1 世話をしていることで影響があること（複数回答）

(%)

	全体(n=)	学校を休んでしまう	遅刻や早退をしてしまう	宿題など勉強する時間がない	眠る時間が足りない	友達と遊ぶことができない	習い事ができない	自分の時間が取れない	その他	特にない	無回答
小学5年生	156	2.6	1.3	5.1	2.6	5.8	0.0	14.1	1.9	57.7	19.2
中学2年生	123	5.7	8.9	13.8	13.8	11.4	4.1	20.3	0.8	45.5	22.8
計	279	3.9	4.7	9.0	7.5	8.2	1.8	16.8	1.4	52.3	20.8

⑫世話をすることに感じている大変さ

世話をすることに感じている大変さについては、いずれも「特に大変さは感じていない」が最も高くなっている。その他では、いずれも「気持ちの面で大変である」が高くなっている。

表 2 2 世話をすることに感じている大変さ（複数回答）

(%)

	全体(n=)	体力の面で大変である	気持ちの面で大変である	時間の余裕がない	特に大変さは感じていない	無回答
小学5年生	156	10.9	14.1	12.2	48.7	20.5
中学2年生	123	17.9	22.0	14.6	42.3	22.8
計	279	14.0	17.6	13.3	45.9	21.5

⑬世話について誰かに相談した経験

世話について誰かに話した経験については、いずれも「ない」が最も高くなっている。

表 2 3 世話について誰かに相談した経験

(%)

	全体 (n=)	ある	ない	無回答
小学5年生	156	21.2	56.4	22.4
中学2年生	123	21.1	56.9	22.0
計	279	21.1	56.6	22.2

⑭世話についての相談相手

世話についての相談経験があると回答した人に、世話についての相談相手を質問したところ、いずれも「家族(父母、祖父母、兄弟)」が最も高くなっている。その他では、いずれも「友達」が高くなっている。

表 2 4 世話についての相談相手 (複数回答)

(%)

	全体 (n=)	家族(父母、祖父母、きょうだい)	親戚(おじ、おばなど)	友達	学校の先生(保健室の先生以外)	保健室の先生	スクールソーシャルワーカーやスクールカウンセラー	病院、医療、福祉サービスの人	近所の人	SNS上での知り合い	その他	無回答
小学5年生	33	90.9	0.0	33.3	9.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
中学2年生	26	76.9	11.5	65.4	19.2	0.0	0.0	0.0	0.0	7.7	0.0	0.0
計	59	84.7	5.1	47.5	13.6	0.0	0.0	0.0	0.0	3.4	0.0	0.0

⑮世話について相談していない理由

世話について相談経験がないと回答した人に、相談していない理由について質問したところ、いずれも「相談するほどの悩みではない」が最も高くなっている。

表 2 5 世話について相談していない理由（複数回答）

(%)

	全体 (n=)	相談するほどの悩みではない	誰に相談するのがよいかわからない	相談できる人がいないから	家族のこのため話にくい	家族のことを知られたくない	相談しても何も変わらない	その他	無回答
小学5年生	88	72.7	5.7	2.3	2.3	2.3	4.5	13.6	3.4
中学2年生	70	72.9	8.6	7.1	5.7	4.3	14.3	11.4	2.9
計	158	72.8	7.0	4.4	3.8	3.2	8.9	12.7	3.2

⑯世話について話を聞いてくれる人の有無

世話について相談経験がないと回答した人に、世話について話を聞いてくれる人の有無を質問したところ、いずれも「いる」が最も高くなっている。

表 2 6 世話について話を聞いてくれる人の有無

(%)

	全体 (n=)	いる	いない	無回答
小学5年生	88	71.6	22.7	5.7
中学2年生	70	61.4	35.7	2.9
計	158	67.1	28.5	4.4

⑰学校や周りの大人にしてほしいこと

世話をしている人がいると回答した人に、学校や周りの大人にしてほしいことを質問したところ、いずれも「特になし」が最も高くなっている。それ以外では、小学5年生で「自由に使える時間がほしい」、「自分のことについて話を聞いてほしい」が高くなっており、中学2年生で「勉強を教えてほしい」、「自分のことについて話を聞いてほしい」が高くなっている。

表 27 学校や周りの大人にしてほしいこと（複数回答）

(%)

	全体(n=)	自分のことについて話を聞いてほしい	家族のお世話について相談してほしい	家族の病気や障がい、世話のことなどについてわかりやすく説明してほしい	自分がしている世話を誰かに代わってほしい	自分がしている世話の一部を誰かに代わってほしい	自由に使える時間がほしい	勉強を教えてほしい	家庭への経済的な支援	その他	特になし	わからない	無回答
小学5年生	156	12.8	1.3	1.3	4.5	2.6	17.9	10.3	4.5	0.6	42.3	10.9	17.9
中学2年生	123	14.6	2.4	4.9	3.3	4.1	13.8	22.8	11.4	0.8	35.8	9.8	15.4
計	279	13.6	1.8	2.9	3.9	3.2	16.1	15.8	7.5	0.7	39.4	10.4	16.8

(4)ヤングケアラーについて

①ヤングケアラーへの該当性の有無

世話をしている人がいると回答した人に、自分がヤングケアラーにあてはまると思うかについて質問したところ、「あてはまる」と答えた人は、小学 5 年生で6.4%、中学2年生で11.4%となっている。また、いずれも「わからない」が約 3 割となっている。

表 28 ヤングケアラーへの該当性の有無
(%)

	全体 (n=)	あてはまる	あてはまらない	わからない	無回答
小学 5 年生	156	6.4	47.4	31.4	14.7
中学 2 年生	123	11.4	48.0	32.5	8.1
計	279	8.6	47.7	31.9	11.8

②ヤングケアラーという言葉の認知

世話をしている人がいると回答した人に、ヤングケアラーという言葉を知っていたかどうかについて質問したところ、いずれも「知らなかった」が約7割となっている。

表 29 ヤングケアラーという言葉の認知
(%)

	全体 (n=)	知っていた	知らなかった	無回答
小学 5 年生	156	13.5	73.1	13.5
中学 2 年生	123	18.7	73.2	8.1
計	279	15.8	73.1	11.1

3 結果詳細分析

「世話をしている家族がいる」と回答した児童生徒の状況を詳しく分析するため、小学5年生及び中学2年生の回答を合計してクロス集計を行った。

(1) 家族の世話の有無による学校生活等の状況

① 家族の世話の有無×家族構成

世話をしている家族がいる場合といない場合を比べたところ、大きな差は見られない。

表 30 家族の世話の有無×家族構成

(%)

	全体 (n=)	二世 代世帯	三世 代世帯	ひとり 親世帯	その他 世帯	無 回答
世話をしている家族がいる	279	79.2	6.5	9.0	5.4	0.0
世話をしている家族がいない	3705	79.9	6.2	9.5	4.0	0.4

② 家族の世話の有無×健康状態

世話をしている家族がいる場合、いない場合に比べて、「体が時々しんどい」等のしんどいを含む項目が高くなっている。

表 31 家族の世話の有無×健康状態

(%)

	全体 (n=)	よ い	ま あ よ い	ふ じ う	体 が 時 々 し ん ど い	体 が い つ も し ん ど い	心 が 時 々 し ん ど い	心 が い つ も し ん ど い	無 回 答
世話をしている家族がいる	279	50.2	18.6	23.3	14.7	1.4	9.0	2.9	0.7
世話をしている家族がいない	3705	47.2	20.9	26.6	11.8	1.3	7.7	2.2	0.2

③家族の世話の有無×学校の出席状況

世話をしている家族がいる場合、いない場合と比べて、「たまに欠席する」、「よく欠席する」が高くなっている。

表 3 2 家族の世話の有無×学校の出席状況

(%)

	全体 (n=)	ほとんど欠席しない	たまに欠席する	よく欠席する	無回答
世話をしている家族がいる	279	67.4	29.0	3.6	0.0
世話をしている家族がいない	3705	78.5	19.0	2.1	0.4

④家族の世話の有無×遅刻や早退の状況

世話をしている家族がいる場合、いない場合と比べて、「遅刻や早退をする」が高くなっている。

表 3 3 家族の世話の有無×遅刻や早退の状況

(%)

	全体 (n=)	ほとんどしない	たまにする	よくする	無回答
世話をしている家族がいる	279	77.4	17.2	5.0	0.4
世話をしている家族がいない	3705	81.5	14.7	3.4	0.5

⑤家族の世話の有無×習い事等の有無

世話をしている家族がいる場合といない場合を比べたところ、大きな差は見られない。

表 3 4 家族の世話の有無×習い事等の有無

(%)

	全体 (n=)	習い事等をしている	習い事等をしていない	無回答
世話をしている家族がいる	279	81.0	19.0	0.0
世話をしている家族がいない	3705	79.0	20.5	0.5

⑥家族の世話の有無×普段の学校生活等であてはまること

世話をしている家族がいる場合、いない場合と比べて、「宿題ができていないことが多い」、「提出物を出すのが遅れることが多い」が高くなっている。

表 3 5 家族の世話の有無×普段の学校生活等であてはまること

(%)

	全体 (n=)	授業中に寝てしまうことが多い	宿題ができていないことが多い	持ち物の忘れ物が多い	習い事を休むことが多い	提出物を出すのが遅れることが多い	宿泊行事を欠席する	保健室で過ごすことが多い	学校では一人で過ごすことが多い	友達と遊んだり、おしゃべりしたりする時間が少ない	特になし	無回答
世話をしている家族がいる	279	16.1	20.8	28.3	2.5	31.2	1.4	0.7	6.8	7.9	47.3	0.4
世話をしている家族がいない	3705	14.8	15.7	25.5	3.0	26.5	0.6	1.3	6.5	5.5	50.9	1.3

⑦家族の世話の有無×悩みや困りごと

世話をしている家族がいる場合、いない場合と比べて、全体的に悩みや困りごとの割合が高くなっている。特に「学校の成績のこと」、「友達のこと」が高くなっている。

表 3 6 家族の世話の有無×悩みや困りごと

(%)

	全体(n=)	友達のこと	学校の成績のこと	習い事のこと	家族のこと	生活や勉強に必要なお金のこと	自分のために使える時間が少ないこと	その他	特にない	無回答
世話をしている家族がいる	279	22.6	33.0	9.0	11.8	9.0	10.4	6.5	39.8	1.4
世話をしている家族がいない	3705	15.6	26.5	8.0	6.5	5.5	6.6	5.2	54.9	2.1

⑧家族の世話の有無×悩みや困りごとの相談相手の有無

世話をしている家族がいる場合、いない場合と比べて、「相談相手がない」が高くなっている。

表 3 7 家族の世話の有無×悩みや困りごとの相談相手の有無

(%)

	全体(n=)	相談相手がいる	相談相手がない	相談や話はしたくない	無回答
世話をしている家族がいる	164	62.2	10.4	25.0	2.4
世話をしている家族がいない	1594	63.8	7.2	24.7	4.3

(2) 家族構成からみる世話の状況

① 家族構成×世話をしている相手

いずれの世帯でも「きょうだい」が最も高くなっている。三世帯世帯では、次いで「祖母」が高く、ひとり親世帯では「母親」が高くなっている。

表 38 家族構成×世話をしている相手

(%)

	全体 (n=)	母親	父親	祖母	祖父	きょうだい	その他	無回答
二世帯世帯	221	12.7	11.8	4.1	1.4	68.3	0.9	19.5
三世帯世帯	18	11.1	5.6	22.2	16.7	66.7	5.6	16.7
ひとり親世帯	25	28.0	8.0	16.0	4.0	64.0	4.0	16.0
その他世帯	15	13.3	0.0	33.3	26.7	33.3	6.7	6.7

② 家族構成×世話の理由(父母)

いずれの世帯でも「わからない」が最も高くなっている。

表 39 家族構成×世話の理由 (父母)

(%)

	全体 (n=)	高齢 (65歳以上)	介護が必要	身体障がいがある	知的障がいがある	心の病気がある	依存症がある	その他の病気	日本語が苦手	その他	わからない	無回答
二世帯世帯	31	3.2	0.0	3.2	0.0	0.0	3.2	0.0	3.2	16.1	58.1	16.1
三世帯世帯	2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0	50.0
ひとり親世帯	7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	14.3	57.1	28.6
その他世帯	2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0

③家族構成×世話の理由(祖父母)

いずれの世帯でも「高齢(65歳以上)」が最も高くなっている。

表 4 0 家族構成×世話の理由 (祖父母)

(%)

	全体(n=)	高齢(65歳以上)	介護が必要	身体障がいがある	知的障がいがある	心の病気がある	依存症がある	その他の病気	日本語が苦手	その他	わからない	無回答
二世帯世帯	10	40.0	20.0	10.0	20.0	0.0	0.0	10.0	0.0	10.0	20.0	0.0
三世帯世帯	5	60.0	40.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	20.0	20.0	20.0
ひとり親世帯	5	40.0	40.0	40.0	0.0	0.0	0.0	20.0	0.0	0.0	20.0	20.0
その他世帯	7	71.4	14.3	0.0	14.3	0.0	0.0	14.3	0.0	0.0	14.3	0.0

④家族構成×世話の理由(きょうだい)

いずれの世帯でも「若い」が最も高くなっている。

表 4 1 家族構成×世話の理由 (きょうだい)

(%)

	全体(n=)	若い	介護が必要	身体障がいがある	知的障がいがある	病気がある	日本語が苦手	その他	わからない	無回答
二世帯世帯	151	74.2	2.0	3.3	2.0	0.0	0.7	5.3	11.3	3.3
三世帯世帯	12	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	25.0	8.3	16.7
ひとり親世帯	16	56.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	18.8	31.3	0.0
その他世帯	5	40.0	0.0	0.0	20.0	0.0	20.0	0.0	20.0	20.0

⑤家族構成×世話の理由(その他の人)

「その他」、「わからない」のみとなっている。

表 4 2 家族の構成×世話の理由 (その他の人)

(%)

	全体 (n=)	高齢 (65歳以上)	介護 が必要	身体障 がいがある	知的障 がいがある	心の病 気がある	依存症 がある	その他 の病気	日本語 が苦手	その他	わから ない	無回 答
二世 代世帯	2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0	50.0	0.0
三世 代世帯	1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0
ひと り親世帯	1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0
その他 世帯	1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0

⑥家族構成×世話を一緒にしている人

いずれの世帯でも「母親」が最も高くなっている。二世
代世帯及び三世代世帯では、次いで「父親」が高く、ひとり親世帯では「自分のみ」が高くなっている。

表 4 3 家族構成×世話を一緒にしている人

(%)

	全体 (n=)	母親	父親	祖母	祖父	きょう だい	親戚 の人	自分 のみ	福祉サ ービス を利用	その他	無回 答
二世 代世帯	221	60.2	48.9	8.1	5.4	28.5	2.3	12.7	3.2	0.0	23.5
三世 代世帯	18	44.4	33.3	27.8	11.1	27.8	0.0	11.1	5.6	0.0	27.8
ひと り親世帯	25	44.0	0.0	4.0	0.0	20.0	0.0	24.0	0.0	0.0	28.0
その他 世帯	15	60.0	13.3	20.0	20.0	26.7	6.7	13.3	0.0	6.7	20.0

⑦家族構成×世話を始めた年齢

二世世代世帯及びひとり親世帯では、「小学生(低学年)」が高くなっている。三世世代世帯では「就学前」、「小学生(高学年)」が高く、「小学生(高学年)」が高くなっている。

表 4 4 家族構成×世話を始めた年齢

(%)

	全体(n=)	就学前	小学生(低学年)	小学生(高学年)	中学生以降	無回答
二世世代世帯	221	17.2	24.4	21.7	4.5	32.1
三世世代世帯	18	27.8	5.6	27.8	11.1	27.8
ひとり親世帯	25	12.0	28.0	20.0	4.0	36.0
その他世帯	15	6.7	13.3	33.3	26.7	20.0

⑧家族構成×世話の頻度

いずれの世帯でも「ほぼ毎日」が最も高くなっている。

表 4 5 家族構成×世話の頻度

(%)

	全体(n=)	ほぼ毎日	週に3~5日	週に1~2日	1か月に数日	その他	無回答
二世世代世帯	221	41.6	11.8	13.1	5.4	4.1	24.0
三世世代世帯	18	22.2	22.2	16.7	5.6	5.6	27.8
ひとり親世帯	25	52.0	8.0	8.0	4.0	0.0	28.0
その他世帯	15	60.0	13.3	0.0	6.7	6.7	13.3

⑨家族構成×平日1日あたりの世話をを行う時間

いずれの世帯でも「3時間未満」が最も高くなっており、全体の約5～6割が7時間未満の世話をを行っている。

表 4 6 家族構成×平日1日あたりの世話をを行う時間

(%)

	全体 (n=)	3時間 未満	3 ～ 7時間 未満	7 時間 以上	無 回 答
二世帯世帯	221	38.0	22.6	7.7	31.7
三世帯世帯	18	33.3	22.2	11.1	33.3
ひとり親世帯	25	32.0	20.0	16.0	32.0
その他世帯	15	46.7	20.0	6.7	26.7

⑩家族構成×世話をしていることで影響があること

いずれの世帯でも「特にない」が最も高くなっている。次いで「自分の時間が取れない」が高くなっている。

表 4 7 家族構成×世話をしていることで影響があること

(%)

	全体 (n=)	学校を 休んで しまう	遅刻や 早退を してし まう	宿題な ど勉強 する時 間がない	眠る時 間が足 りない	友達と 遊ぶこ とがで きない	習い事 がで きない	自分の 時間が 取れ ない	その他	特にな い	無回 答
二世帯世帯	221	3.6	3.6	8.1	5.9	7.2	0.9	13.6	1.4	54.3	20.8
三世帯世帯	18	5.6	5.6	11.1	5.6	11.1	0.0	27.8	0.0	33.3	27.8
ひとり親世帯	25	0.0	8.0	12.0	16.0	12.0	8.0	24.0	4.0	52.0	20.0
その他世帯	15	13.3	13.3	13.3	20.0	13.3	6.7	40.0	0.0	46.7	13.3

①家族構成×世話をすることを感じている大変さ

ひとり親世帯及びその他世帯では、二世帯世帯及び三世帯世帯と比べて、「特に大変さは感じていない」の割合が低く、「体力の面で大変である」、「気持ちの面で大変である」の割合が高くなっている。

表 4 8 家族構成×世話をすることを感じている大変さ
(%)

	全体 (n=)	体力の面で 大変である	気持ちの面で 大変である	時間の余裕が ない	特に大変さは 感じていない	無回答
二世帯世帯	221	14.0	15.4	12.7	48.0	21.3
三世帯世帯	18	5.6	16.7	16.7	44.4	27.8
ひとり親世帯	25	16.0	24.0	12.0	40.0	24.0
その他世帯	15	20.0	40.0	20.0	26.7	13.3

⑫家族構成×学校や周りの大人にしてほしいこと

二世世代世帯及びひとり親世帯では「特にない」が高く、三世世代世帯では「自由に使える時間がほしい」、その他世帯では「自分のことについて話を聞いてほしい」が高くなっている。

表 4 9 家族構成×学校や周りの大人にしてほしいこと

(%)

	全体 (n=)	自分のことについて話を聞いてほしい	家族のお世話について相談ののってほしい	家族の病気や障がい、世話のことなどについてわかりやすく説明してほしい	自分がしている世話の全てを誰かに代わってほしい	自分がしている世話の一部を誰かに代わってほしい	自由に使える時間がほしい	勉強を教えてほしい	家庭への経済的な支援	その他	特にない	わからない	無回答
二世世代世帯	221	11.8	1.4	1.8	2.7	2.7	14.9	15.8	5.4	0.9	43.0	10.0	16.3
三世世代世帯	18	22.2	0.0	0.0	11.1	0.0	33.3	11.1	11.1	0.0	22.2	5.6	27.8
ひとり親世帯	25	12.0	4.0	8.0	4.0	8.0	12.0	12.0	16.0	0.0	32.0	16.0	20.0
その他世帯	15	33.3	6.7	13.3	13.3	6.7	20.0	26.7	20.0	0.0	20.0	13.3	6.7

(3) 平日1日あたりの世話に費やす時間による生活状況

① 平日1日あたりの世話に費やす時間×健康状態

世話に費やす時間が3時間以上の場合、3時間未満と比べて「体が時々しんどい」等のしんどいを含む項目が高くなっている。

表 5 0 平日1日あたりの世話に費やす時間×健康状態

(%)

	全体 (n=)	よい	まあよい	ふつう	体が時々しんどい	体がいつもしんどい	心が時々しんどい	心がいつもしんどい	無回答
3時間未満	105	46.7	15.2	31.4	14.3	1.0	9.5	2.9	1.0
3～7時間未満	62	54.8	22.6	17.7	22.6	1.6	9.7	3.2	0.0
7時間以上	24	37.5	12.5	20.8	25.0	4.2	12.5	4.2	0.0

② 平日1日あたりの世話に費やす時間×学校の出席状況

世話に費やす時間が長いほど、「たまに欠席する」、「よく欠席する」が高くなっている。

表 5 1 平日1日あたりの世話に費やす時間×学校の出席状況

(%)

	全体 (n=)	ほとんど欠席しない	たまに欠席する	よく欠席する	無回答
3時間未満	105	69.5	29.5	1.0	0.0
3～7時間未満	62	64.5	29.0	6.5	0.0
7時間以上	24	50.0	37.5	12.5	0.0

③平日1日あたりの世話に費やす時間×遅刻や早退の状況

世話に費やす時間が長いほど、遅刻や早退を「たまにする」、「よくする」が高くなっている。

表 5 2 平日1日あたりの世話に費やす時間×遅刻や早退の状況

(%)

	全体 (n=)	ほとんどしない	たまにする	よくする	無回答
3時間未満	105	79.0	17.1	3.8	0.0
3～7時間未満	62	74.2	16.1	8.1	1.6
7時間以上	24	54.2	33.3	12.5	0.0

④平日1日あたりの世話に費やす時間×習い事等の有無

世話に費やす時間が3時間以上の場合、「習い事等をしていない」が高くなっている。

表 5 3 平日1日あたりの世話に費やす時間×習い事等の有無

(%)

	全体 (n=)	習い事等をしている	習い事等をしていない	無回答
3時間未満	105	82.9	17.1	0.0
3～7時間未満	62	77.4	22.6	0.0
7時間以上	24	79.2	20.8	0.0

⑤平日1日あたりの世話に費やす時間×普段の学校生活等であてはまること

世話に費やす時間が3時間以上の場合、3時間未満と比べて、「宿題ができていないことが多い」、「持ち物の忘れ物が多い」、「提出物を出すのが遅れることが多い」が高くなっている。

表 5 4 平日1日あたりの世話に費やす時間×普段の学校生活等であてはまること

(%)

	全体(n=)	授業中に寝てしまうことが多い	宿題ができていないことが多い	持ち物の忘れ物が多い	習い事を休むことが多い	提出物を出すのが遅れることが多い	宿泊行事を欠席する	保健室で過ごすことが多い	学校では一人で過ごすことが多い	友達と遊んだり、おしゃべりしたりする時間が少ない	特になし	無回答
3時間未満	105	18.1	15.2	27.6	3.8	31.4	1.0	0.0	8.6	8.6	50.5	1.0
3～7時間未満	62	9.7	25.8	32.3	0.0	37.1	3.2	1.6	3.2	8.1	41.9	0.0
7時間以上	24	16.7	29.2	37.5	4.2	37.5	0.0	0.0	4.2	12.5	29.2	0.0

⑥平日1日あたりの世話に費やす時間×悩みや困りごと

世話に費やす時間が7時間未満の場合は、悩みや困りごとについて「特にない」が最も高く、次いで「学校の成績のこと」が高くなっている。7時間以上の場合は、「学校の成績のこと」が最も高くなっている。

表 5 5 平日1日あたりの世話に費やす時間×悩みや困りごと

(%)

	全体(n=)	友達の こと	学校の 成績の こと	習い 事のこと	家族の こと	生活や 勉強に 必要な お金の こと	自分の ために 使える 時間が 少ない こと	その他	特にな い	無回 答
3時間未満	105	22.9	30.5	9.5	10.5	5.7	10.5	9.5	41.9	0.0
3~7時間未満	62	27.4	32.3	8.1	14.5	11.3	6.5	3.2	46.8	0.0
7時間以上	24	33.3	54.2	16.7	16.7	20.8	20.8	4.2	25.0	0.0

⑦平日1日あたりの世話に費やす時間×世話をすることを感じている大変さ

世話に費やす時間が3時間以上の場合、3時間未満と比べて、「体力の面で大変である」、「気持ちの面で大変である」、「時間の余裕がない」のいずれも高くなっている。

表 5 6 平日1日あたりの世話に費やす時間×世話をすることを感じている大変さ

(%)

	全体(n=)	体力の 面で大 変であ る	気持ち の面で 大変であ る	時間の 余裕が ない	特に大 変さは 感じて いない	無回 答
3時間未満	105	12.4	19.0	12.4	65.7	1.0
3~7時間未満	62	24.2	27.4	21.0	46.8	0.0
7時間以上	24	29.2	29.2	33.3	41.7	0.0

⑧平日1日あたりの世話に費やす時間×世話について誰かに相談した経験

世話に費やす時間が3～7時間未満の場合、3時間未満及び7時間以上と比べて、世話について誰かに相談した経験がないと回答した割合が高くなっている。

表 5 7 平日1日あたりの世話に費やす時間×世話について誰かに相談した経験

(%)

	全体 (n=)	ある	ない	無回答
3時間未満	105	28.6	68.6	2.9
3～7時間未満	62	19.4	79.0	1.6
7時間以上	24	37.5	62.5	0.0

⑨平日1日あたりの世話に費やす時間×世話について相談していない理由

世話に費やす時間が7時間未満の場合、「相談するほどの悩みではない」が高くなっている。世話に費やす時間が長くなるほど「相談しても何も変わらない」が高くなっている。

表 5 8 平日1日あたりの世話に費やす時間×世話について相談していない理由

(%)

	全体 (n=)	相談するほどの悩みではない	誰に相談するのがよいかわからない	相談できる人がいないから	家族のこのため話にくい	家族のことを知られたくない	相談しても何も変わらない	その他	無回答
3時間未満	72	80.6	8.3	6.9	2.8	2.8	5.6	6.9	0.0
3～7時間未満	49	73.5	6.1	4.1	6.1	2.0	10.2	18.4	2.0
7時間以上	15	46.7	0.0	0.0	0.0	13.3	26.7	26.7	0.0

(4)世話をしている相手ごとの世話の状況等

①世話をしている相手×世話を一緒にする人

世話をしている相手に関わらず、「母親」または「父親」と一緒に世話をしている割合が高い。祖父母の場合、他と比べて「福祉サービスを利用」が高く、きょうだい及びその他の場合、他と比べて「自分のみ」が高くなっている。

世話の相手が父母の場合、他と比べて、「無回答」が高くなっている。

表 59 世話をしている相手×世話を一緒にする人

(%)

	全体 (n=)	母親	父親	祖母	祖父	きょうだい	親戚の人	自分のみ	福祉サービスを利用	その他	無回答
父母	42	42.9	23.8	7.1	2.4	26.2	4.8	9.5	2.4	2.4	40.5
祖父母	27	74.1	29.6	22.2	7.4	22.2	7.4	11.1	14.8	3.7	7.4
きょうだい	184	70.1	53.3	10.3	7.1	34.8	1.6	17.9	1.6	0.0	6.5
その他	5	60.0	60.0	20.0	20.0	20.0	0.0	20.0	0.0	0.0	20.0

②世話をしている相手×世話を始めた年齢

世話をしている相手がきょうだいの場合、他と比べて「就学前」が高くなっている。祖父母の場合、他と比べて「小学生(高学年)」が高くなっている。

世話の相手が父母の場合、他と比べて、「無回答」が高くなっている。

表 60 世話をしている相手×世話を始めた年齢

(%)

	全体 (n=)	就学前	小学生 (低学年)	小学生 (高学年)	中学生以降	無回答
父母	42	2.4	16.7	16.7	4.8	59.5
祖父母	27	11.1	7.4	33.3	22.2	25.9
きょうだい	184	23.4	31.5	28.3	3.8	13.0
その他	5	0.0	0.0	20.0	40.0	40.0

③世話をしている相手×世話の頻度

世話をしている相手がいずれの場合も、「ほぼ毎日」が最も高くなっている。
世話の相手が父母の場合、他と比べて、「無回答」が高くなっている。

表 6 1 世話をしている相手×世話の頻度

(%)

	全体 (n=)	ほぼ 毎日	週に 3～ 5日	週に 1～ 2日	1 か 月 に 数 日	そ の 他	無 回 答
父母	42	26.2	7.1	14.3	4.8	2.4	45.2
祖父母	27	29.6	14.8	22.2	11.1	11.1	11.1
きょうだい	184	55.4	16.3	11.4	5.4	4.9	6.5
その他	5	40.0	20.0	20.0	0.0	0.0	20.0

④世話をしている相手×平日1日あたりの世話に費やす時間

世話をしている相手がいずれの場合も 3 時間未満が最も高くなっている。祖父母及びきょうだいの場合は、父母の場合と比べて、3時間以上の割合が高くなっている。
世話の相手が父母の場合、他と比べて、「無回答」が高くなっている。

表 6 2 世話をしている相手×平日1日あたりの世話に費やす時間

(%)

	全体 (n=)	3 時 間 未 満	3 ～ 7 時 間 未 満	7 時 間 以 上	無 回 答
父母	42	31.0	9.5	4.8	54.8
祖父母	27	48.1	25.9	11.1	14.8
きょうだい	184	44.6	29.9	10.3	15.2
その他	5	40.0	0.0	40.0	20.0

⑤世話をしている相手×世話をすることに感じている大変さ

世話をしている相手がその他以外の場合、「特に大変さは感じていない」が最も高くなっている。

世話の相手が父母の場合、他と比べて、「無回答」が高くなっている。

表 6 3 世話をしている相手×世話をすることに感じている大変さ

(%)

	全体 (n=)	体力の面で大変である	気持ちの面で大変である	時間の余裕がない	特に大変さは感じていない	無回答
父母	42	14.3	14.3	4.8	28.6	45.2
祖父母	27	18.5	29.6	11.1	40.7	11.1
きょうだい	184	15.8	20.7	16.8	54.9	6.0
その他	5	60.0	0.0	40.0	20.0	20.0

⑥世話をしている相手×世話について誰かに相談した経験

世話をしている相手が祖父母の場合、他と比べて誰かに相談した経験が「ない」が高くなっている。

世話の相手が父母の場合、他と比べて、「無回答」が高くなっている。

表 6 4 世話をしている相手×世話について誰かに相談した経験

(%)

	全体 (n=)	ある	ない	無回答
父母	42	14.3	40.5	45.2
祖父母	27	11.1	74.1	14.8
きょうだい	184	25.5	67.9	6.5
その他	5	40.0	40.0	20.0

(5) ヤングケアラーへの該当性の有無による状況の違い

① ヤングケアラーへの該当性の有無×健康状態

ヤングケアラーにあてはまる場合、他と比べ「よい」が低く、「体が時々しんどい」が高くなっている。あてはまらない場合、他と比べ「心が時々しんどい」が高くなっている。

表 6 5 ヤングケアラーへの該当性の有無×健康状態

(%)

	全体 (n=)	よい	まあよい	ふつう	体が時々しんどい	体がいつもしんどい	心が時々しんどい	心がいつもしんどい	無回答
あてはまる	24	33.3	16.7	25.0	29.2	0.0	8.3	0.0	4.2
あてはまらない	133	56.4	14.3	21.8	13.5	0.8	11.3	1.5	0.0
わからない	89	43.8	24.7	23.6	15.7	3.4	6.7	6.7	0.0

② ヤングケアラーへの該当性の有無×学校の出席状況

ヤングケアラーにあてはまる場合、他と比べて「欠席する」が高くなっている。

表 6 6 ヤングケアラーへの該当性の有無×学校の出席状況

(%)

	全体 (n=)	ほとんど欠席しない	たまに欠席する	よく欠席する	無回答
あてはまる	24	33.3	58.3	8.3	0.0
あてはまらない	133	74.4	24.1	1.5	0.0
わからない	89	68.5	27.0	4.5	0.0

③ヤングケアラーへの該当性の有無×遅刻や早退の状況

ヤングケアラーにあてはまる場合、他と比べて「遅刻や早退をする」割合が高くなっている。

表 6 7 ヤングケアラーへの該当性の有無×遅刻や早退の状況

(%)

	全体 (n=)	ほとんど しない	たまに する	よく する	無 回 答
あてはまる	24	50.0	37.5	12.5	0.0
あてはまらない	133	88.0	9.8	2.3	0.0
わからない	89	70.8	20.2	7.9	1.1

④ヤングケアラーへの該当性の有無×習い事等の状況

ヤングケアラーにあてはまる場合、他と比べて「習い事等をしていない」が高くなっている。

表 6 8 ヤングケアラーへの該当性の有無×習い事等の状況

(%)

	全体 (n=)	習い 事等 をして いる	習い 事等 をして いない	無 回 答
あてはまる	24	66.7	33.3	0.0
あてはまらない	133	86.5	13.5	0.0
わからない	89	76.4	23.6	0.0

⑤ヤングケアラーへの該当性の有無×普段の学校生活等であてはまること

ヤングケアラーにあてはまる場合、あてはまらない場合と比べて、「特にない」の割合が低く、「持ち物の忘れ物が多い」、「提出物を出すのが遅れることが多い」、「宿題ができていないことが多い」等の割合が高くなっている。

表 69 ヤングケアラーへの該当性の有無×普段の学校生活等であてはまること

(%)

	全体 (n=)	授業中に寝てしまうことが多い	宿題ができていないことが多い	持ち物の忘れ物が多い	習い事を休むことが多い	提出物を出すのが遅れることが多い	宿泊行事を欠席する	保健室で過ごすことが多い	学校では一人で過ごすことが多い	友達と遊んだり、おしゃべりしたりする時間が少ない	特にない	無回答
あてはまる	24	25.0	41.7	45.8	12.5	45.8	0.0	0.0	0.0	8.3	33.3	0.0
あてはまらない	133	16.5	14.3	26.3	0.8	26.3	1.5	0.8	8.3	8.3	48.1	0.8
わからない	89	15.7	22.5	27.0	2.2	37.1	2.2	1.1	6.7	7.9	47.2	0.0

⑥ヤングケアラーへの該当性の有無×悩みや困りごと

ヤングケアラーにあてはまる場合、あてはまらない場合と比べて、「特にない」の割合が低く、「友達のこと」、「学校の成績のこと」、「家族のこと」等の割合が高くなっている。

表 70 ヤングケアラーへの該当性の有無×悩みや困りごと

(%)

	全体(n=)	友達のこと	学校の成績のこと	習い事のこと	家族のこと	生活や勉強に必要なお金のこと	自分のために使える時間が少ないこと	その他	特にない	無回答
あてはまる	24	45.8	37.5	4.2	20.8	8.3	12.5	12.5	25.0	0.0
あてはまらない	133	20.3	30.1	6.0	9.0	9.0	9.0	5.3	42.1	1.5
わからない	89	22.5	38.2	14.6	15.7	10.1	14.6	6.7	39.3	1.1

⑦ヤングケアラーへの該当性の有無×世話を一緒にしている人

いずれの場合でも、「母親」が最も高くなっている。ヤングケアラーにあてはまる場合、他と比べて「きょうだい」が高くなっている。

表 71 ヤングケアラーへの該当性の有無×世話を一緒にしている人

(%)

	全体(n=)	母親	父親	祖母	祖父	きょうだい	親戚の人	自分のみ	福祉サービスを利用	その他	無回答
あてはまる	24	70.8	29.2	4.2	4.2	41.7	4.2	16.7	4.2	4.2	0.0
あてはまらない	133	65.4	49.6	11.3	6.8	28.6	3.0	11.3	1.5	0.0	18.0
わからない	89	61.8	46.1	12.4	7.9	31.5	1.1	21.3	5.6	0.0	14.6

⑧ヤングケアラーへの該当性の有無×世話を始めた年齢

ヤングケアラーにあてはまる、わからないと答えた場合、「小学生(高学年)」が高く、あてはまらない場合、「小学生(低学年)」が高くなっている。

表 7 2 ヤングケアラーへの該当性の有無×世話を始めた年齢 (%)

	全体 (n=)	就学前	小学生 (低学年)	小学生 (高学年)	中学生 以降	無回答
あてはまる	24	8.3	25.0	41.7	12.5	12.5
あてはまらない	133	18.8	29.3	21.8	6.0	24.1
わからない	89	20.2	20.2	27.0	6.7	25.8

⑨ヤングケアラーへの該当性の有無×世話の頻度

いずれの場合も「ほぼ毎日」が高くなっているが、ヤングケアラーにあてはまる場合、他と比べて特に「ほぼ毎日」が高くなっている。

表 7 3 ヤングケアラーへの該当性の有無×世話の頻度 (%)

	全体 (n=)	ほぼ毎日	週に 3～5日	週に 1～2日	1か月に 数日	その他	無回答
あてはまる	24	62.5	12.5	8.3	4.2	12.5	0.0
あてはまらない	133	47.4	10.5	13.5	7.5	3.0	18.0
わからない	89	43.8	18.0	15.7	4.5	4.5	13.5

⑩ヤングケアラーへの該当性の有無×平日1日あたりの世話に費やす時間
ヤングケアラーにあてはまる場合、他と比べて「7時間以上」が高くなっている。

表 7 4 ヤングケアラーへの該当性の有無×平日1日あたりの世話に費やす時間
(%)

	全体 (n=)	3 時間 未 満	3 ～ 7 時 間 未 満	7 時 間 以 上	無 回 答
あてはまる	24	37.5	16.7	29.2	16.7
あてはまらない	133	43.6	24.8	7.5	24.1
わからない	89	40.4	28.1	7.9	23.6

⑪ヤングケアラーへの該当性の有無×世話をしていることで影響があること

いずれの場合も「特にない」が最も高くなっているが、ヤングケアラーにあてはまる、わからないと答えた場合、あてはまらない場合と比べて、「自分の時間が取れない」、「友達と遊ぶことができない」等、全体的に高くなっている。

表 7 5 ヤングケアラーへの該当性の有無×世話をしていることで影響があること

(%)

	全体 (n=)	学校を休んでしまう	遅刻や早退をしてしまう	宿題など勉強する時間がない	眠る時間が足りない	友達と遊ぶことができない	習い事ができない	自分の時間が取れない	その他	特にない	無回答
あてはまる	24	8.3	12.5	16.7	12.5	20.8	0.0	33.3	0.0	50.0	0.0
あてはまらない	133	3.0	0.8	7.5	3.8	5.3	1.5	8.3	0.8	63.9	17.3
わからない	89	5.6	10.1	12.4	14.6	12.4	3.4	31.5	3.4	49.4	7.9

⑫ヤングケアラーへの該当性の有無×世話をすることに感じている大変さ

ヤングケアラーにあてはまる場合、他と比べて「特に大変さは感じていない」が低く、「体力の面で大変である」、「気持ちの面で大変である」、「時間の余裕がない」が高くなっている。

表 76 ヤングケアラーへの該当性の有無×世話をすることに感じている大変さ (%)

	全体 (n=)	体力の面で 大変である	気持ちの面で 大変である	時間の 余裕がない	特に 大変さは 感じて いない	無 回答
あてはまる	24	41.7	41.7	29.2	33.3	0.0
あてはまらない	133	12.0	12.0	11.3	55.6	15.8
わからない	89	14.6	25.8	16.9	49.4	9.0

⑬ヤングケアラーへの該当性の有無×世話について誰かに相談した経験

ヤングケアラーにあてはまる場合、他と比べて、「誰かに相談したことがある」が高くなっている。

表 77 ヤングケアラーへの該当性の有無×世話について誰かに相談した経験 (%)

	全体 (n=)	ある	ない	無 回答
あてはまる	24	41.7	58.3	0.0
あてはまらない	133	19.5	64.7	15.8
わからない	89	25.8	61.8	12.4

⑭ヤングケアラーへの該当性の有無×相談していない理由

相談していない理由については、ヤングケアラーにあてはまる場合、他と比べて、「相談するほどの悩みではないから」が低く、「誰に相談するのがよいか分からないから」等の割合が高くなっている。

表 78 ヤングケアラーへの該当性の有無×相談していない理由

(%)

	全体 (n=)	相談するほどの 悩みではないから	誰に相談するの がよいか分から ないから	相談できる人 がいないから	家族のことに ため話しにくい から	家族のことを 知られたくない から	相談しても何 も変わらないか ら	その他	無回答
あてはまる	14	64.3	14.3	0.0	7.1	7.1	14.3	21.4	0.0
あてはまらない	86	76.7	5.8	4.7	2.3	2.3	4.7	14.0	1.2
わからない	55	70.9	7.3	5.5	5.5	3.6	14.5	9.1	3.6

⑮ヤングケアラーへの該当性の有無×相談相手の有無

ヤングケアラーにあてはまる場合、他と比べて、「相談相手がない」が高くなっている。

表 79 ヤングケアラーへの該当性の有無×相談相手の有無

(%)

	全体 (n=)	いる	いない	無回答
あてはまる	14	57.1	42.9	0.0
あてはまらない	86	69.8	25.6	4.7
わからない	55	65.5	30.9	3.6

⑩ヤングケアラーへの該当性の有無×学校や周りの大人にしてほしいこと

ヤングケアラーへの該当性について、あてはまらない、わからないと回答した場合、「特
にない」が高くなっている。あてはまる場合、他と比べて「自分のことについて話を聞いて
ほしい」、「自由に使える時間がほしい」、「勉強を教えてほしい」等が高くなっている。

表 80 ヤングケアラーへの該当性の有無×学校や周りの大人にしてほしいこと

(%)

	全体 (n=)	自分のことについて話を聞いてほしい	家族のお世話について相談にのってほしい	家族の病気や障がい、世話のことなどについてわかりやすく説明してほしい	自分がしている世話の全てを誰かに代わってほしい	自分がしている世話の一部を誰かに代わってほしい	自由に使える時間がほしい	勉強を教えてほしい	家庭への経済的な支援	その他	特にな い	わから ない	無回 答
あてはま る	24	37.5	4.2	4.2	16.7	8.3	33.3	33.3	12.5	0.0	12.5	12.5	4.2
あてはま らない	133	12.0	0.8	3.0	2.3	1.5	14.3	12.8	5.3	0.8	52.6	9.0	9.8
わから ない	89	14.6	3.4	3.4	4.5	5.6	20.2	21.3	12.4	1.1	39.3	14.6	3.4

4 自由記述

アンケート調査において、家族のお世話をしている子どものために必要だと思うことや、学校や周りの大人にしてほしいこと等についての自由記述を一部掲載する。

※下記の自由記述は、原文のままではないが、なるべく回答者の表現を用いる形としている。

(1)小学5年生

自由記述
周りの大人、例えばカウンセラーへの相談が必要だと思います。
勉強が苦手だから教えてほしい。
自分の時間などを増やしてほしい。
相談にのってほしい。
褒めてもらいたい。
ヤングケアラーの子どもたちが通えるような学校があればいいと思いました。
絶対に支えなければならないと思わずに、他の人に頼って少しでも好きな時間を過ごすことがいいと思います。
相談があったら言うことが必要だと思います。
話すのは大変だと思うけど、ちゃんと家族や相談できる人に相談してみることにしよう。
家族をお世話をしている子どもに、必要であればベビーシッターやデイサービスなどを何か月か無料ですること。
みんなが暮らしやすくなるために色々な工夫をしてほしい。
お父さんがお酒を飲みすぎて心配なので、お父さんが飲みすぎないように注意してほしい。
学校で「家のことで困っている人はいますか。」と声をかけること。
無理に家庭のことに入ってくるのではなく、「頑張れ」と応援してほしい。
親のお世話をしてほしい。
お世話を代わってほしいです。
ヤングケアラーの人たちに大人が寄り添ってほしい。
休む時間がほしい。
私より大変な子がいるので、その子たちのために何かしてあげてほしい。

(2) 中学 2 年生

自由記述
お金の面で支援してほしい。
勉強を教えてください
祖母のお世話が負担になってきていますが、親も仕事が夜勤で健康状態が不安です。金銭面も裕福ではないので少し大変な生活だと思えます。弟がずっと我慢していると思うので、子どもらしいことをさせてあげたいです。
お世話について家族のみんなで協力すること。
赤ちゃんのお世話を両親に代わってほしいです。
必要なことについては、難しすぎて分かりません。してもらいたいことはないです。
自分の高校や大学の学費について支援がほしい。
将来、自分たちが大人になったときに誰かと一緒にお世話をするときに今までお家で経験したことが役に立つから。
周りの人に話し合えるような環境を作ったら良いと思います
お金の面での支援、勉強教えてください
誰かの世話をすることが負担になっている人には、何らかの支援が必要だと思いました。
勉強ができる環境づくりをしてほしい。
祖父母のことが心配なので在宅介護のあり方や支援についてもっと考えてほしい。
お金、補助、心のケア、気遣い、支援

5 調査結果のまとめ

○ 家族の世話をしている児童生徒は、小学5年生で7.8%、中学2年生で6.0%

家族の世話をしていると答えた児童生徒は、小学5年生で7.8%、中学2年生で6.0%（全体で6.9%）だった。厚生労働省が令和3年及び令和4年に公表した全国調査での同様の質問では、世話をしている家族がいると答えた割合は、小学6年生で6.5%、中学2年生で5.7%であった。

○ 家族の世話をしている児童生徒の傾向

家族の世話をしている場合、していない場合と比べて、健康状態が「しんどい」、学校の出席状況が「欠席する」、遅刻や早退の状況が「遅刻や早退をする」と答えた割合が高くなっており、家族の世話をしていることで、健康状態や通学に影響が生じている可能性がある。また普段の学校生活においても「提出物を出すのが遅れることが多い」、「持ち物の忘れ物が多い」、「宿題ができていないことが多い」等の割合が高くなっており、こうしたことも家族の世話をしていることでの児童生徒への影響を示唆するものであることが考えられる。さらに、悩みや困りごとでは「学校の成績のこと」、「友達のこと」、「家族のこと」等の割合が高くなっており、逆に「特にない」の割合は低くなっていることから、家族の世話をしている児童生徒は、世話をしていない場合と比べて、悩みや困りごとを抱えていることが考えられる。

○ 家族構成でみる傾向

家族構成は小学5年生、中学2年生のいずれでも「二世帯世帯」が高くなっているが、中学2年生では、小学5年生に比べて「ひとり親世帯」が若干高くなっている。世話をしている相手では、どの家族構成でも「きょうだい」が最も高く、世話の理由は「若い」が高くなっているが、三世帯世帯では、次いで「祖母」、「祖父」が高く、世話の理由は「高齢(65歳以上)」が高くなっており、ひとり親世帯では、次いで「母親」が高く、世話の理由は「わからない」が高くなっていること等、家族構成毎に世話の相手及び理由による特徴がみられた。また、世話を始めた年齢は、家族構成毎に大きな差異はみられず概ね8歳以降であったが、世話の頻度では、ひとり親世帯が「ほぼ毎日」の割合が高く、平日1日あたりの世話を行う時間では、ひとり親世帯が他の家族構成と比べて、平均値6.9時間と高くなっていることから、ひとり親世帯において世話の負担が大きい状況がうかがえる。世話をしていることでの影響や感じている大変さについては、いずれの家族構成でも「特にない」、「特に大変さは感じていない」の割合が高い一方で、ひとり親世帯では「自分の時間が取れない」等の影響や、「気持ちの面で大変である」等の大変さの割合が二世帯世帯と比べて高いことから、ひとり親世帯では、より世話による影響や大変さを感じていることが考えられる。

○ 世話に費やす時間による影響

平日1日あたりの世話に費やす時間は、小学5年生は平均3.5時間、中学2年生は平均4.8時間であった。世話に費やす時間が7時間以上の場合、7時間未満と比べて健康状態が「しんどい」と答える割合が高くなっており、長時間の世話による健康状態への影響が懸念される。また、同様の比較で長時間の世話になるほど、「学校を欠席する」、「遅刻や早退する」等の割合が高くなる傾向がみられる。平日1日あたりの世話に費やす時間が3時間以上になると、3時間未満と比べて、学校生活等で「宿題ができていないことが多い」、「持ち物の忘れ物が多い」、「提出物を出すのが遅れることが多い」の割合が高くなっており、悩みや困りごとについても項目によるが高くなる傾向がみられる。これらのことから、世話の時間が長いほど児童生徒の生活等の面で影響がでている可能性が考えられる。

○ 世話をしている相手による傾向

世話をしている相手は、きょうだい最も割合が高くなっており、世話をしている相手が他の場合と比べて、世話を始めた年齢で「就学前」の割合が高くなっている。このことから、きょうだいの世話をを行う場合、比較的低年齢から行っていることがうかがわれる。世話をしている相手が父母の場合、他と比べてほとんどの設問で無回答の割合が高くなっており、祖父母やきょうだいの世話の内容と比べて、父母の世話の内容については、児童生徒が答えたくない背景があることが可能性の一つとして考えられる。

○ ヤングケアラーへの該当性の有無による傾向

ヤングケアラーへの該当性について「わからない」と答えた場合の健康状態、学校の出席状況、遅刻や早退の状況、普段の学校生活等であてはまること及び悩みや困りごと等を見ると、「あてはまる」と答えた場合と多くの項目で似通った傾向があり、「わからない」と答えているものの、支援が必要な状態であり、ヤングケアラーの自覚がない児童生徒が含まれている可能性が考えられる。「あてはまる」場合、「あてはまらない」場合と比べて、学校の出席状況及び遅刻や早退の状況では、「学校を欠席する」、「遅刻や早退をする」の割合が高くなっており、普段の学校生活等であてはまることでは、「宿題ができていないことが多い」、「持ち物の忘れ物が多い」、「提出物を出すのが遅れることが多い」等の割合が高くなっている。さらに、悩みや困りごとでは、「友達のこと」、「学校の成績のこと」、「家族のこと」等の割合が高く、「特にない」の割合が低くなっている等、ヤングケアラーに「あてはまる」と回答した児童生徒は、学校生活等への影響がより顕著にでており、悩みや困りごとを抱えていることが考えられる。また、「あてはまる」と答えた場合は、「あてはまらない」場合と比べて、世話をしていることでの影響では、「自分の時間が取れない」、「友達と遊ぶことができない」、「宿題など勉強する時間がない」、「眠る時間が足りない」等の多くの項目で高い割合となっていることや、世話をすることに感じて

いる大変さでは、「大変である」、「時間の余裕がない」の項目で高い割合となっていることから、児童生徒の日常生活においても影響がより顕著にでていることや世話への大変さをより感じていることがうかがえる。相談の状況は、「あてはまる」と答えた場合、「あてはまらない」、「わからない」と比べて、世話について誰かに「相談した経験がある」の割合が高くなっているが、「相談した経験がない」が 58.3%あり、その理由として「相談するほどの悩みではないから」の割合が高い一方で、「誰に相談するのがよいか分からないから」、「相談しても何も変わらないから」等があった。さらに、「あてはまる」場合、相談相手の有無をみると、「あてはまらない」、「わからない」と比べて、「相談相手はいない」の割合が高くなっている。こうしたことに加え、学校や周りの大人にしてほしいことでは、「あてはまる」と答えた場合、「あてはまらない」、「わからない」と比べて、「特にない」が最も低く、「自分のことについて話を聞いてほしい」、「自由に使える時間がほしい」、「勉強を教えてほしい」等、多くの項目で割合が高くなっていることから、ヤングケアラーと思われる子どもに周囲が気づき声をかける環境や、子どもが自身の状況について、周囲に相談しやすい環境を作っていくことが必要であると考えられる。

6 おわりに

●本調査は、市立小中学校を通じて児童生徒に調査チラシを配布し、学校の配付端末を用いて、Web環境から回答(調査チラシの二次元コードから案内)する方法で、任意のアンケート調査を実施した。各校からも働きかけを行い、全体の回収率は 70.2%となったが、今回のアンケートが家庭の状況を問うものであったことから、児童生徒の側からみて答えにくいところがあった可能性や、回答に至らなかった中にも、本調査結果と同様に、「家族の世話をしている人」や「ヤングケアラー」が含まれている可能性に考慮しなければならない。

●家族の世話をしている場合、学校を欠席することや遅刻・早退が多くなったり、宿題ができていないことが多くなる等、世話をしていない場合に比べ、健康状態が悪かったり、学校生活に何らかの支障を生じている傾向にあると考えられる。世話の有無にかかわらず、子どもが自身の持つ能力を最大限発揮できるよう、子どもの生活状況等を把握しやすい学校を中心として、周囲の大人が早期に子どもの状況に気づき、関係機関につないでいくことが重要となる。

●つないでいく際は、子どもの中には家族の状況を知られることがはずかしいと思ったり、家族の世話をすることが生きがいになったりしている場合も想定されるため、子ど

もに寄り添い話を聞くこと、支援が必要なのか、どのような支援を望んでいるのかに留意することが必要となる。

●ヤングケアラーという言葉を知っているかの質問では、約7割が「知らなかった」と答えたように、ヤングケアラーの概念がまだ浸透していない状況を鑑み、ヤングケアラーの正しい理解を深めていく必要がある。また、ヤングケアラーと思われる子どもを発見した場合は、子どもの精神面のケアや個別の家庭状況にも最大限配慮のうえ、子どもの想いを聞き取ることが重要となる。

●今回の調査は、小学5年生及び中学生2年生を対象としたものであったが、調査結果で把握できた内容については、子どもの年齢によって違いはあるもの、おおよそ同じような状況が想定されることに留意する必要がある。